



#### (4) 古碑

日記の記載によると、校内から明応年間（1492～1501）の古碑が採集され、2月7日（土）に松下・野尻から寄贈を受けているが、実物は未確認である。明応年間が正しいとすれば、年代的に見て、板碑であった可能性がある。

### 2. 山林学校周辺の遺跡

#### (1) 「山林学校前」の遺跡

日記の記載によると、4月29日（土）に「山林学校前」の遺跡土器5点、石器1点、骨片2点を採集したことになる。この「山林学校前」の遺跡を現在の遺跡に対比した場合、どの遺跡に該当するかが問題となる。骨片の存在を重視するならば、現在の西ヶ原貝塚であった可能性も否定できないが、可能性を指摘するに留めたい。

#### (2) 「介壚を見る（丘の南東にあり）」の介壚とは？

日記の記載によると、7月3日（金）に「丘の南東」にある「介壚」を見ている。注目すべきは、その「介壚」を「甚大なり」と表現していることであり、この「介壚」が方角と規模から中里貝塚を指すのかが問題となる。

### 3. 大森貝塚

大森貝塚は、エドワード・S・モースが発見・発掘した縄文時代後期から晩期にかけての貝塚であり、東京都品川区大井6丁目にある。昭和30（1955）年に国史跡に指定され、一部が遺跡公園になっている。品川区立品川歴史館が近隣にあり、関連の展示コーナーがある。明治10（1877）年6月に発見され、同年9月から発掘された。明治12（1879）年7月に英文の報告書である『SHELL MOUND of OMORI』、同年12月に邦文の報告書である『大森介壚古物編』が刊行された。熊楠は、この報告書を読んだ上で、2月1日（火）と5月12日（火）に大森貝塚を訪れている。

#### (1) 土器

日記の記載によると、少なくとも計23点の土器が収集されている。南方熊楠記念館と顕彰館には、縄文時代後期から晩期にかけての土器が収蔵されており、今回の調査により、新たに須恵器が採集されていたことがわかった。

#### (2) 動物遺体

日記の記載によると、骨片1点と巻貝のバイが1点採集されている。遺跡には、多数の貝殻が散布していたと推定されるが、熊楠は何故か貝類の標本を積極的に採集していない。

### 4. 小石川植物園

小石川植物園とは、現在の東京大学大学院理学系研究科附属植物園のことであり、東京都文京区白山3丁目にある。江戸時代の貞享元（1684）年に江戸幕府が設立した「小石川御薬園」を前身とし、明治10（1877）年に東京大学が創立されると、その直後に附属植物園となり、一般に公開されるようになった。この植物園は、日本の近代植物学の発祥の地であり、東アジアの植物研究の世界的センターとなっている。熊楠は、大森貝塚の報告書の記載から園内の遺跡を知り、8月3日（月）に土器片4点を採集している（南方1987）。該当する土器片は、記念館と顕彰館の収蔵資料に確認

できなかったが、遺跡不明の一群に混在している可能性もある。

## 5. 遺跡不明の遺物

記録が確認できないことから、採集された遺跡が不明な遺物もある。この中には、記念館にある縄文時代後期後葉の深鉢の大破片、顕彰館にある縄文時代後期中葉の山形土偶の脚部なども含まれる。熊楠は、自ら遺物を採集しているが、友人から遺物の寄贈を受けたり、遺物を購入することもあった。このことから、遺跡不明の遺物については、これらの何れかに由来するものと考えられるが、記録が失われているために、詳細を知ることができない。

おわりに

熊楠の遺跡探訪と収集遺物については、これまで大森貝塚の事例(本間 2007)が知られていたが、山林学校や小石川植物園については、遺跡への言及があるだけで、詳細が紹介されることはなかった。今回、改めて熊楠の日記を読み解きながら、南方熊楠記念館と顕彰館の収蔵資料を調査し、熊楠の遺跡探訪と収集遺物について、概要を把握することができた。これらの遺物は、明治 18 (1885) 年を中心に収集された推定されるが、残念ながら遺跡不明の遺物も目立っている。その中には、形と大きさがある程度わかる縄文土器(記念館)や縄文時代後期の山形土偶(顕彰館)が含まれており、これらの収集遺物の調査研究を継続したいと考えている。

最後になったが、今回の発表にあたって、三村宜敬学芸員をはじめ、菅谷通保・堀越正行両氏のご教示を得た。明記して感謝の意を表したい。

## <補註>

- 註 1 熊楠は、友人に標本の採集を依頼することがあり、そのための容器を預けることもあった。そのため、日記には友人から標本を受け取る場面の記載も見られる。
- 註 2 山林学校内の遺跡を西ヶ原貝塚に対比する意見があるが、両者の間には一定の距離があり、同一の遺跡とは考えられないことから、両者を同一視する意見には賛同できない。

## <引用・参考文献>

- EDWARD. S. MORSE 1879 『SHELL MOUND OF OMORI』 MEMOIRS OF THE SCIENCE DEPARTMENT UNIVERSITY OF TOKIO, JAPAN. VOLUME I, PART I
- エドワード・エス・モース撰著、矢田部良吉訳 1879 『大森介墟古物編』理科會粹第一帙上冊 東京大学法理文学部
- ブラウンス撰著 1882 『東京近傍地質編』理科會粹第四帙 東京大学
- 坪井正五郎 1886 「本会略史〔第十四会迄〕」『人類学会報告』第壹號 人類学会 一頁
- 白井光太郎 1886 「中里村介塚」『人類学会報告』第四號 人類学会 62-64 頁
- 若林勝邦 1892 「下総武蔵相模貝塚所在地名表」『東京人類学会雑誌』第七十三號 東京人類学会 227-230 頁
- 坪井正五郎 1893 「西ヶ原貝塚探求報告其一」『東京人類学会雑誌』第八卷第八十五號 東京人類学会 258-269 頁

岩崎卓也・榎本金之丞・木下正史 1967「第二篇 原始時代の頃」『文京区史』巻一 文京区役所、125-157、206-253 頁

南方熊楠 1973「明治一九年十月二十三日松寿亭送別会上演説草稿」『南方熊楠全集』第 10 巻

E. S. モース著、近藤義郎・佐原真訳編 1983『大森貝塚-付関連史料-』岩波文庫 33-432-I 岩波書店

南方熊楠 1987『南方熊楠日記 1』八坂書房

倉木常夫 1989『王子七滝考』東京都北区立郷土資料館調査報告第 4 号、8 頁

南方熊楠著・松居竜五訳 2005「日本の記録にみえる食人の形跡（草稿）」『南方熊楠英文論考 [ネイチャー] 誌篇』集英社 284-297 頁

中間岳人 2007「明治 18 年（1885）、南方熊楠が資料採集に訪れる」『日本考古学は品川から始まった-大森貝塚と東京の貝塚-』品川区教育委員会、32・33 頁

北区飛鳥山博物館編 2010『萌えたて桑の葉-東京高等蚕糸学校と西ヶ原-』展示解説書

北区飛鳥山博物館編 2011「お雇い教師ブラウンスと王子貝層」「地形のなりたち」「西ヶ原と農事試験場」『常設展示案内』

寺崎昌男 2012「とうきょうさんりんがっこう 東京山林学校」『明治時代史大辞典』第二巻 吉川弘文館

曾田英夫 2016『発掘！明治初頭の列車時刻-鉄道黎明期の『時刻表』空白の 20 余年』交通新聞社  
 . . . . .

表 1 明治 18 年に熊楠が訪ねた博物館とその回数（日記による）

教育博物館	博物館	動物園	水族館	遊就館	小石川植物園
14 回	16 回	7 回	3 回	2 回	2 回

表 2 南方熊楠記念館と顕彰館の考古資料

	内 容	台帳番号
南方熊楠記念館	土器 29 点、骨 7 点	記 A2-017~034
南方熊楠顕彰館	土器 19 点、石器 3 点、土偶 1 点、千体仏 1 点	関連 1907~1918

表 3 縄文時代の時期区分と遺跡の年代

時 代	時 期	年 代	遺 跡
縄文時代	草創期	約 13,000~9,500 年前	
	早 期	約 9,500~6,000 年前	
	前 期	約 6,000~5,000 年前	
	中 期	約 5,000~4,000 年前	山林学校
	後 期	約 4,000~3,000 年前	大森貝塚、山林学校
	晩 期	約 3,000~2,300 年前	大森貝塚

表4 明治18（1885）年における南方熊楠の遺跡探訪

1/6（火）	快晴	山林学校(Ⓐ)踏査、滝不動(Ⓓ・王子貝層)見学
2/1（日）	晴	大森貝塚踏査
2/7（土）	晴	野尻氏より山林学校(Ⓐ)の古碑投与される
2/15（日）	晴	王子製紙(Ⓔ)見学、山林学校(Ⓐ)や近傍丘陵を踏査
3/1（日）	快晴	野尻・松下両氏より石斧(山林学校Ⓐ?)を寄贈される
3/8（日）	晴	山林学校(Ⓐ)踏査
4/29（木）	雨	野尻・松下両氏より山林学校(Ⓐ)前の遺物を寄贈される
5/12（火）	快晴	山林学校(Ⓐ)踏査、大森貝塚踏査
5/23（土）	晴	小石川植物園踏査
7/3（金）	晴	山林学校踏査、介墟(Ⓒか、丘の南東)踏査
8/3（月）	晴	小石川植物園踏査
11/22（日）	快晴	飛鳥山公園見学、山林学校(Ⓐ)に野尻氏を訪ねる



図1 現東京都北区 JR 王子駅周辺の地図



図2 東京23区の鉄道網と山林学校 (A)・小石川植物園 (B)・大森貝塚 (C) の位置

.....

**【今回の講演に登場する人物>**

1. 松下友吉・野尻貞一 (山林学校学生) ⇒友人、 / 2. エドワード・S・モールス (東大教授・動物学) ⇒大森貝塚発見・発掘・報告書、 / 3. 矢田部良吉 (東大教授・植物学) ⇒大森貝塚報告書訳文作成・小石川植物園の貝塚発見、 / 4. 石川千代松 (東大学生・動物学) ⇒「王子」の貝塚発見、 / 5. ウィンフィールド・S・チャプリン (東大教授・土木工学) ⇒「王子」の貝塚発見 / 6. 神田孝平 (元老院議員) ⇒小石川植物園の貝塚発見、 / 7. ダーフィット・A・ブラウンス (東大教授・地質学) ⇒王子貝層の発見・報告書